

影向の松（ようごうのまつ）

影向の松は、春日大社の一之鳥居を入ってすぐにあります。この松古木は、1309年に春日大社に奉納された絵巻の『春日権現験記』にも描かれています。

春日大社の祭神が、かつて松の木の上に姿を現されたという言い伝えがあり、それ以降、松は聖なる樹木とされてきました。毎年行われる春日若宮おん祭では、松の正面の参道にて、古い形の芸能が奉仕されるなど、特別な儀式が行われます。

さらに、この松の木は、日本中の能舞台の背景にある鏡板と呼ばれる松の絵のモデルとなっています。

600年もの歴史をもつ能は、世界芸能史の中でもっとも古い芸能の一つです。主役者たちは、唄、舞踊、ドラマを能面をつけて役を演じます。

もともとの影向の松は枯死してしまいましたが、その後何度も同じ松の子孫が植え替えられてきました。古い松の傍らでは、次の後継樹が育っています。